

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回 所沢市街づくり基本方針改定委員会
開 催 日 時	平成30年1月30日(火) 午後1時30分から午後4時30分まで
開 催 場 所	市庁舎 7階 研修室
出 席 者 の 氏 名	尾崎 晴男、中村 英夫、淵野 雄二郎、足立 圭子 秋元 智子、河藤 佳彦、藤井 多希子
欠 席 者 の 氏 名	扇原 淳
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 所沢市街づくり基本方針の論点について (2) 市民アンケートについて (3) その他
会 議 資 料	<p>< 当日配布資料 ></p> <p>資 料 5 : 市民アンケート調査 設問項目 (案)</p> <p>追加資料 1 : 所沢市街づくり基本方針改定委員会プロフィール表</p> <p>追加資料 2 : 関連諸計画と「所沢市街づくり基本方針」の関係図</p> <p>追加資料 3 : 緑地保全制度と保全面積</p> <p>追加資料 4 : 公園緑地現況図 (暫定版)</p> <p>追加資料 5 : 所沢市街づくり基本方針に係る市民アンケート (案) と他計画等のアンケート項目</p> <p>追加資料 6 : 市内視察図</p> <p>< 配布済み資料 ></p> <p>資 料 1 : 所沢市街づくり基本方針の改定に向けた基礎調査 (暫定版)</p> <p>資 料 2 : 所沢市街づくり基本方針策定スケジュール</p> <p>資 料 3 : 改定にあたっての主要検討テーマ</p> <p>資 料 4 : 改定にあたっての主要検討テーマ (委員会ごとの検討内容)</p> <p>資 料 6 : 所沢市街づくり基本方針改定委員会条例</p> <p>資 料 7 : 未来の子どもたちに残したいマチへ～マチごとエコタウン所沢 構想～概要版</p> <p>参考資料 1 : 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (P1～P16 重点プロジェクトまで)</p> <p>参考資料 2 : COOL JAPAN FOREST (リーフレット)</p> <p>参考資料 3 : ところバス路線図</p> <p>基礎資料 1 : 所沢市街づくり基本方針改定方針</p>

<p>担 当 部 課 名</p>	<p>街づくり計画部都市計画課</p> <p>街づくり計画部長 糟谷 守</p> <p>街づくり計画部次長 秋田 博庸</p> <p>都市計画課 課長 畑中 武</p> <p>主幹 岡村 章一</p> <p>副主幹 関根 和夫</p> <p>主査 長谷川 力</p> <p>主査 横山 仁</p> <p>主任 坂本 賢二</p> <p>主任 北丸 淳子</p> <p>技師 小寺 静香</p> <p>(事務局)</p> <p>街づくり計画部都市計画課 電話04(2998)9192</p>
------------------	--

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>～ 開 会 ～</p> <p>委嘱状の交付（大館副市長より各委員に委嘱状を交付）</p> <p>副市長挨拶</p> <p>委員自己紹介</p> <p>欠席委員報告（扇原委員）</p> <p>会議成立の報告</p> <p>委員長・副委員長選出（委員長に尾崎委員、副委員長に中村委員を選出）</p> <p>委員長・副委員長挨拶</p> <p>諮問（糟谷街づくり計画部長より尾崎委員長に諮問書を交付）</p> <p>会議の公開・非公開の決定（公開に決定）</p> <p>会議録署名委員の選出（秋元委員、足立委員を選出）</p>
事務局	<p>～ 議 事 ～</p> <p>（ 1 ）所沢市街づくり基本方針の論点について</p> <p>～ 資料 1 の図や表の説明を交え、主に資料 3 及び 4 に基づき説明 ～</p>
委員	<p>街づくり基本方針は、第 6 次所沢市総合計画とどのような関係になりますか。</p>
事務局	<p>追加資料 2 に本市の総合計画や個別計画と埼玉県土地利用に関する計画などについて関係性を整理しております。</p> <p>第 6 次所沢市総合計画をはじめ所沢市環境基本計画などの個別計画が平成 3 1 年に策定または改定予定で作業を進めております。街づくり基本方針は平成 3 2 年の改定予定でございますので、先に策定する計画の進捗状況をふまえて街づくり基本方針を改定していくこととなります。関連分野の政策や方向性に対して、都市計画や土地利用という観点から、街づくり基本方針がどのように貢献していけるのかというような考えで整理していただければと思います。</p> <p>また、個別計画の策定や改定作業が進む中で、都市計画分野の考え方を求められることもありますので、そういった場面では、本委員会でご出されたご意見やご議論の内容をお伝えしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>各種ある市の計画の中で、街づくり基本方針はどのような位置づけになりますか。</p>
事務局	<p>第 6 次所沢市総合計画は、街のあり方を実現するために具体的な指標や事業を定めた本市の最上位計画であり、平成 3 1 年から 1 0 年後までの計画となります。街づくり基本方針は、さらにその 1 0 年先の街の姿を描いたもので、事業計画ではないこと</p>

<p>委員長</p>	<p>から、実現のための手法までは記載いたしません、都市計画分野の最上位計画となるものです。</p> <p>本日は初回ということで、皆さまのご関心のある分野で自由にご発言いただければと思います。また、資料4で示されているテーマ1「都市計画側からの所沢市の魅力を高めるためのビジョン設定について」とテーマ2「人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能な都市づくりについて」を併せて議論していきたいと思います。また、他のテーマに議論が及んでも構いませんし、皆さまの研究分野や活動分野のご紹介も絡めていただいて構いません。</p>
<p>委員</p>	<p>今日、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題が取り沙汰されており、厚生労働省では地域包括ケアシステムの構築を、国土交通省では小さな拠点として中学校区を単位にした街づくりを推進するなど、様々な分野で包括的な地域ケアが進められているところです。</p> <p>実は2025年は問題の入り口で、本当の問題はその状況が2060年まで続くということです。</p> <p>団塊世代の最後は1949年生まれで現在69歳ですが、20年後は89歳になり、団塊ジュニア世代は60代後半になり親の介護をしつつ自分も老いてくるという苦しい時期にあたります。さらに20年後の2058年頃になると、団塊ジュニア世代は80代後半になり、自分の子どもにどのように看取ってもらおうかと考える時期になります。</p> <p>街づくり基本方針は20年後ということですが、さらに20年後を視野に入れて持続可能な都市づくりを考えていければと思います。子育て世代が一定数いて、世代交代ができることを持続可能と考えますので、本委員会では40年後のことも含めて議論していただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>街づくり基本方針は20年後ということですが、一世代30年と言われることもあり、一世代、二世世代先を想定して考えていくということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>所沢市産業振興ビジョン策定委員会で本市の特色について議論させていただきました。その中で、所沢の魅力が都心部に近く自然豊かな住宅都市であるということから、ソフト産業やクリエイティブ産業という知識集約型産業も考えていく必要があるという議論がありました。</p> <p>街づくりとの関係性で考えると、「COOL JAPAN FOREST 構想」のように、コンテンツや文化、デザイン、芸術で付加価値を生み出していくようなクリエイティブ産業を中心とした知識集約型産業の立地が重要です。</p> <p>また、マチごとエコタウン所沢構想との関係性で考えると、知識集約型産業は公害が発生しないため、人が住む、自然を有効活用するという点と持続可能性という点に</p>

<p>委員</p>	<p>おいても付加価値の創出ができるため、当該構想にもなじむものだと思います。</p> <p>私は、マチごとエコタウン所沢構想策定検討委員会の委員を務めておりました。持続可能な発展というのは、環境の分野ではサステナブル・ディベロップメントと言われ、資源・経済・人が地域で回っていくことを意味します。したがって、当該構想も資源・エネルギー・ソフトの循環を基本に策定しましたので、それが市民の安全安心につながっていくものと考えます。</p> <p>人口については、実は減った方が環境にはいいのです。過度な人口ではなく、適正な人口が求められるのではと思います。</p> <p>また、本市の資源は緑で、都内とは違う資源をもつ都市だと思います。本市は駅周辺に人が集まり、市街化調整区域には緑が広がっています。まさに環境にいいコンパクトシティなのではないかと思います。そのコンパクトシティと緑・自然のクオリティをあげていくことが必要で、そうすると、都会から移住してくる人も増加し、空き家の活用や元気な高齢者の活用へつなげていくことも考えられると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>コンパクトシティという考え方は所沢に当てはまり、自然・緑は本市の資源になるのではないかというご意見でした。</p>
<p>委員</p>	<p>本市には11行政区があり、人口減少の影響も地域ごとに違います。また、市街地、平地農地、中山間地があり、受けている影響も地域ごとに違います。したがって、都市計画では市全体の大きな都市像を描くのではなく、地域ごとにコンパクトに描いていくことが必要だと思います。</p> <p>人口減少で厳しい状況になっている中山間地域では、空き家の増加や買い物難民などの問題があるように、空間の整備の仕方は地域ごとに異なってくると思います。国交省が推進しているコンパクトシティは市街化区域のリフォームのようなものと認識しているので本市には合わないと思っています。市内にはそれぞれの地域に拠点となる保育所や公民館などが配置されているので、地域ごとにリニューアルしていくべきだと思います。</p> <p>あとは、法改正の問題があります。都市農業振興基本法が創設され、都市緑地法も改正がありました。特に緑地については、農地も含まれますが、本市には雑木林、生産緑地が多いため、農業者の将来構想とうまくリンクすることが必要です。都市農業振興基本法は条例などをもってゾーニングがつけられるだろうと思いますので、そことの連携をどう考えていくべきかと思います。また、みどりの基本計画も別途用意されていくのだと思います。それぞれの行政区にあうモデルを提示していくことが必要だと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>市域全体ではなく、条件が地域ごとに違う。その条件によって、農業、緑を考えていくべきというご意見でしょうか。</p>

委員	<p>追加資料3に制度ごとにどの規模の緑地が保全されているか、そのうちの程度本市が公有地として購入しているのが整理されておりますが、おそらく埼玉県内でトップなのではないかと思えます。</p> <p>本市では、かつて産廃業者が無届で産業廃棄物を燃やしたことでダイオキシン問題が起こり、雑木林の中からもダイオキシンが検出されました。その雑木林の1つ、7,500㎡を購入して現在、自然を再生する活動を行っています。また、<u>自然再生推進法^{*1}</u>を活用して、くぬぎ山で自然再生に取り組んでいます。</p> <p>所沢は地味な街かもしれませんが、街が人を育てていて、人が街を育てていると思います。これが両輪でないといけないと思います。</p> <p>エコロジカルパークが多いことが特筆できることであり、滝の城址公園、所沢カルチャーパーク、小手指ヶ原公園、鳩峯公園、三ヶ島堀之内公園、が該当します。これだけエコロジカルパークを打ち出している自治体はないと思います。ですから、雑木林の保存だけでなく、公園の指定という手法も進めて欲しいと思います。</p> <p>また、本市の雑木林は砂嵐から守るための重要な役割がありますので、伐採したら砂嵐の舞う街としてイメージダウンになってしまいます。</p> <p>本市は緑が輝き、それにより人が輝く街だと感じています。人口が減ることは悪いことではなく、住みやすいモデルタウンがつけれる街だと思います。</p>
委員長	<p>先ほどおっしゃった公園は全て都市公園でしょうか。</p>
委員	<p>三ヶ島堀之内公園以外は都市計画決定している公園で、総合公園と風致公園に分類できます。</p> <p>（総合公園：滝の城址公園、所沢カルチャーパーク、小手指ヶ原公園） （風致公園：鳩峯公園）</p>
委員長	<p>資料1「人口一人あたりの都市公園面積」に都市公園は多くはないと示されていましたが、これから徐々に増えてくるということでしょうか。</p>
委員	<p>都市計画決定しているものの未整備である小手指ヶ原公園が整備されると、緑の導線がつながっていきます。平坦地なので歩きやすい立地環境です。</p>
事務局	<p>～ 都市公園の位置等について、追加資料4「公園緑地現況図（暫定版）」に基づき説明 ～ （三ヶ島堀之内公園は、公園予定地ということで紹介）</p>
委員長	<p>滝の城址公園約10ha、所沢カルチャーパーク約26haあるエコロジカルパークをはじめ、その他に大きくなくても緑地があり、それらが拠点的に配置されているということですね。</p>

委員	<p>先ほど挙げたコンパクトシティは、将来人口が減少へ向かっていくなかで、必要になってくる都市的なサービスを適切に供給するために、サービス拠点を適切に配置するという施策かと思います。</p> <p>街づくり基本方針の改定を考えていくうえで、一つ目に、街の活力や賑わい、就業の場をどう強化するのか、二つ目に、住んでいる人にとっての安全安心で、災害に対する安全だけでなく、高齢化を迎えるうえでの福祉や緊急時の病院を含めた生活面での安心を含めたもので、三つ目は、自然、エコといった環境との共生、この3つが大きな柱になると思っています。</p> <p>資料1に市域をメッシュに区切り、人口の増減が示されておりますが、地域ごとの高齢化率がどのくらいで、若い世代との交代が進むのかなどの詳細が確認できれば、地域ごとの対応を考えることが出来るのではないかと思います。悪くなりそうな部分をあらかじめ炙り出していくような作業が必要かと思います。</p> <p>また、街の構造についてですが、現在の街づくり基本方針では、所沢駅や小手指駅周辺などの都市的な生活拠点と、生涯学習や文化活動などの学習・文化拠点という20年前の拠点の構想が整理されております。今後、街の体質が変わっていくなかで、20年先の拠点をどう考えていくのか、街の構造をどう考えていくのか、今後は福祉などのこれから必要となってくる視点も加えて検討していくことになると思います。</p>
委員長	<p>街づくり基本方針の中では全市的にみるものと、地域ごとの特徴をふまえて検討するべきである、というご意見ですね。その他はいかがでしょうか。いろんな分野からの話題提供をお願いできればと思います。</p>
委員	<p>産業振興においても農業を含めて考えていくということが大事かと思います。本市は果物・野菜中心の都市近郊型農業になるのかと思いますが、農作物のブランド化が大事になってくると思います。</p> <p>また、街づくりの視点では、例えば、生産農家に頼るだけでなく貸農園を推進する、農業を行うエリアをゾーニングするなど、農地のあり方を考えていくことが必要だと思います。</p>
委員長	<p>産業のなかでも農業は非常に重要であり、都市計画・土地利用の観点から支援、維持発展するよう進めていくことが重要であるというご意見と、都市計画とは直接関係しないかもしれませんが、農作物のブランド化を考えてみるということですね。</p>
委員	<p>産業としての農業ということで、都市計画の視点から考えると、ゾーンの考え方の話があると思います。現在は、市街化区域内に一般住宅地と農地を共存させていくことが国から示されておりますが、主体の設定と農地を残す手法をどのように考えるのかだと思います。</p> <p>本市では、市街化区域にも立派なお茶畑がありますので、そういった農地をどのよ</p>

	<p>うなゾーンにどのような手法で残すのか。また、主体の話ですが、本市では山の管理もボランティアで行っている事例もあり、おそらく従来の農家ではなく、NPOなどの主体がそれぞれの地区で行っていくことになると思います。</p>
委員長	<p>本市には、狭山茶という所沢産のブランドが既にあるので、色々検討することができかもしれませんが。</p>
委員	<p>ダイオキシン問題が発生した際、三富を中心に農業が痛めつけられましたが、市役所で野菜を販売したり、里芋のブランド化を図ったり色々な取り組みを行っていると思います。</p> <p>農業は新規参入が難しいのが課題ですが、これから期待できるのは小麦だと思います。小麦は冬に作ると土埃を防ぐことができますし、うどんだけでなく、パンやピザの材料にもなりますので、いい作物です。</p> <p>農業の振興には、市民と学識経験者のアドバイスが必要だと思います。</p>
委員	<p>気候変動が今後、20年、40年、60年先に影響を与えられています。農業の話がありましたが、40年、50年先は気候が変わっていますので、その時に農業を続けられるのかを考える必要があると思いますし、自然が減少していくことを考えて計画を検討していくことが必要になってくると思います。</p> <p>治水や下水などのインフラ整備だけでなく、どのような自然災害が起こるか分からないなかで、所沢であれば安全安心に暮らせるという、インフラとソフトを兼ね備えた街づくりが必要だと思います。</p>
委員長	<p>本市の地盤は強いと伺っています。それを活かすようなインフラ整備を行っていくということでしょうか。それから災害でいうと、川の氾濫もあると聞きましたが、加えて火災にも留意しなければと思います。</p>
委員	<p>集中豪雨により、下水・雨水管が溢れるということが全国で起こっていますので、<u>レジリエンス</u>^{*2}な街をつくることが大事であると思います。</p>
委員	<p>所沢ニュータウンは、昭和40年代の後半にまとめて戸建住宅が建設された地域です。現在、戸建に住んでいる世帯は、子どもが家を出て、高齢者となった親世帯ですので、人口減少率が高いと思いますが、もう少し時が経つと、人口減少のスピードは緩やかになります。一方で、建築協定が廃止されてミニ開発が行われた所沢ニュータウンの一部には若い世代が入ってきています。</p> <p>また、東京都心50km圏内のニュータウンでは、駅から遠い立地でも子育て環境がいいところでは子育て世代が入ってきています。</p> <p>このように、人口減少のスピードは一律ではありませんし、増えることもあります。</p>

委員	<p>したがって、地域内格差を対処するには時間軸を織り込んで検討していくべきだと思います。</p> <p>クリエイティブ産業の話がありました。クリエイティブ産業に関わる人に住んでもらうことが重要です。農業においてクリエイティブな人材という、例えば流通経路などを考えたり農作物に付加価値を付けるアイデアを出したりするプロデューサーです。そういったクリエイティブな人材に本市に住んでみたいと思ってもらえる街をつくっていかねばいけないと思います。</p> <p>また、人口については、通常、夜間人口が基準になっていますが、昼間人口や来街人口という考え方もあるなかで、私は、「活動人口」という考え方を提案しているところです。夜間人口は住民票のある自治体で1名と数えますが、「活動人口」というのは、この自治体で活動していると、そこでも1名として数え、結果的に一人の人間が2名分として数えられるという考え方です。そうすると、本市の人口はおよそ34万人ですが、「活動人口」で考えると85万人ということになるかもしれません。このように考えると、夜間人口に捉われてネガティブにならなくなります。</p>
委員長	<p>「活動人口」という新しい指標をつくるというご提案で、有力な方法ではないかと感じました。また、地域格差には時間軸で捉えていくべきということでした。</p>
委員	<p>地域の状況の違いを地域格差と捉えるべきではないと思います。地域の特徴と捉えると、それがブランド化につながります。</p> <p>人口が減少している地域では、子育てや老後生活がゆったりでき、働き盛りも安心して働くことができます。</p> <p>私の住む地区では、建築協定から地区計画制度へ移行の動きがあり、民間だけではできなかったことが行政の力を借りて新しいことを始めようとなると活気がでていきます。何かあった時にみんなで一緒に新しいことにチャレンジしようとなると、ジャンプアップできると感じています。野菜のブランド化という話がありましたが、そういうものと同じだと思います。ですので、格差ではなく11行政区それぞれ特徴があると考えてみてはと思います。</p>
委員長	<p>言葉では地域格差と言っていましたが、思想は同じで、地域の特徴として捉え考えていくということでした。</p>
委員	<p>クリエイティブ産業の人材の確保は重要なことです。そのために「COOL JAPAN FOREST 構想」で所沢らしい住みやすさ、安全安心、産業活動のある試金石となる街をつくらうとしています。ところざわサクラタウンは民間の責任で事業を進めているので、民間から本市のポテンシャルが認められたということなのだと思います。成功事例になれば、うまく広がっていくプロジェクトだと思っています。</p>

委員	<p>ので、公民連携のプロジェクトとして街づくりにいかに位置づけていくかが重要だと思っています。</p> <p>「活動人口」についてですが、地域経済は住むだけでなく、活動することでも経済的な付加価値を生んでいますので、本市でどのような就業の場を考えて行くのかを、ソフトとハードを結びつけて街づくりに位置づけていくことが必要だと思います。</p> <p>公民連携は非常に大事なことです。問題は行政と民間をつなぐ場の存在だと思います。商業施設をつくれればいいということではなく、それに住民活動がどのように関わっていくのかだと思います。例えば、JAが街づくりにどのようにコミットしていくのかなど、中間領域の支援が必要になってくると思います。</p>
委員長	<p>例としてJAが出ましたが、しっかり活動されているかと思っています。例えば、ところざわサクラタウンには多くの人を訪れるかと思っています。自動車利用の方にはインターチェンジが近くにありますが、渋滞につかまらずにスムーズに目的地に到着できるのか、という懸念はあります。それから、来場者がどこから集まってきており、どのような行動をとるのかについて、戦略を練ってきたのだと思いますが、都内でもなく千葉でもない街として、どのようにアピールするのかということだと思います。</p> <p>例えば、二子玉川は通過駅なのにいつの間にか拠点になっていると感じています。所沢駅を核に、西武とうまくつながるようにインフラを整備できないかと思ったところです。</p>
委員	<p>本市のリスクとしては、単なるベッドタウンになってしまうことが考えられます。そうならないようにするためには人材が必要ということになります。本市には職業的に能力の高い方が多くいらっしゃると思いますが、人材が持つ能力を活かした街づくりを考えて行くことが重要で、そのためには住みやすい、安全安心な街がベースとなります。そうした環境があり、人材が活躍できる場がつくられていくのだと思っています。</p> <p>本市に近いモデルとしてイメージするのは、東京都三鷹市です。三鷹の森ジブリ美術館もあわせてソフト産業を一つの柱に街づくりを進めています。本市はさらに緑が豊かという特徴がありますので、うまく活用して街づくりへ活かしていければと思います。</p>
委員長	<p>ベッドタウンというのは、意識が高く、職業的に能力の高い方が住む場所というイメージはあります。そうした人が住みたくなるような環境を用意していかなければいけないということですね。</p>
委員	<p>そうした人がどうやったら来てくれるのかということだと思います。横浜市にドリームハイツという住宅街があり、空き店舗を活用しているふらっとステーション・ド</p>

	<p>リームというNPO団体が運営するカフェがあります。そのカフェのスペースは作りこんでいなくて、お客さんとして来た人が他の機会では自分が食事をサーブしているというように、その時店舗にいる人の中で役割が決まっていくそうです。役割が固定され決まってしまうというのは、街づくりが固くなってしまいうことにつながりますので、ふらっとステーション・ドリームのように、自分が手を加えることのできる余白のある場所が求められているのではないかと感じています。</p>
<p>委員長</p>	<p>参考になる事例提供をありがとうございます。きっと潜在的な、人材となりうる市民がいらっしゃるかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 市民アンケートについて ～ 資料5に基づき説明 ～</p>
<p>委員長</p>	<p>当該アンケートは平成30年4月に実施予定ということで、まだ案という段階ですので、ご遠慮なくご助言をいただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートは実施意図を明示すると回収率が上がるかと思いますが、A4一枚で趣旨を説明した案内を同封することは必要かと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>私も同意見です。</p>
<p>委員</p>	<p>モビリティや自転車等に関する内容をもう少し設問に加えてみてはいかがでしょうか。街中には自転車が通りにくい狭い道も見られました。公共交通に関する利用アンケート等で既に実施済みでしたら不要かと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>来街者を対象とした調査は行わないのでしょうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>例えばですが、職員に行うということも考えられますね。</p>
<p>委員</p>	<p>聞きづらいですが、健康状態に関する設問を入れられたらいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>用語説明は設ける予定でしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケート用紙の巻末に用語説明を設けてみてはどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>巻末より用語と同じ頁に記載の方が見やすいと思います。</p>

<p>委員長</p>	<p>事務局はこれまでいただいた意見について、可能な範囲で反映できるように検討いただければと思います。</p> <p>(3) その他 次回の日程調整について</p>
<p>委員</p>	<p>以上をもちまして、第1回所沢市街づくり基本方針改定委員会を終了させていただきます。</p>

用語説明

*1 自然再生推進法

過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻す「自然再生」に関する施策を総合的に推進し、もって生物の多様性の確保を通じて自然と共生する社会の実現を図り、あわせて地球環境の保全に寄与することを目的に、平成14年に成立した法律です。(環境省HPより)

*2 レジリエンス

弾力。復元力。また、病気などからの回復力。強靭さ。(デジタル大辞泉より)